

# ¡Hola, amigos!

第059号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のものも順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2005年01月20日 カアデイスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---



**\*今週号\*** No. 059 (2005年・第04週) 01月20日 更新

## 「あめ・あられの夜」の巻

娘が10日間の休暇を取って遊びに来ていました。カアディスへのゲスト一番乗りは結局地の利がある彼女でした。地の利と言っても、ヒースローからセビージャへの直行便は朝08時20分発一本しかないのです、これに乗るにはヒースロー空港周辺のホテルに泊まるか、早朝のタクシーを予約しておくかしないと乗りにくい時間です。娘はコレを避けて、10時30分発のバルセロナ経由でやって来ました。セビージャ空港へは16時10分着、時差が1時間ありますから所要時間はバルセロナでの待ち時間1時間10分をいれて4時間40分です。

また、セビージャからカアディス迄の電車の所要時間は1時間45分で、空港でも駅でも待たずに乗れるバスや電車は絶対ナイないと言ってもいいので、空港についてから更にカアディス迄少なくとも3時間はかかると思わなくてはなりません。娘のようにロンドン周辺からでも一日仕事です。ヒースロー～マラガ2時間40分、マラガ空港からベナルマデナ15分に較べるとずい分不便になってしまいました。いつかカアディスへ行ってみようか、という方はついでにロンドン見物でもして時差ボケを解消してからスペインに飛ぶ、ぐらいのつもりでおいでください。

この辺の旅行社のウインドウに貼ってあるビラを見ても、日本への旅行が一番高いんです。なにしろ遠いし、日本は諸事物価高だしネ。以前はあった直行便がなくなったのはホントに残念。新聞によれば、最近スペインから日本への観光客も急増している

そうなので、イベリア航空に日本への直行便をまた飛ばしてほしいものです。

娘を出迎えてカアディスに帰って来ると、丁度、公現祭パレードの真っ最中でした。



公現祭のパレードについては度々お話ししましたね。写真のようなカローサ(carroza=フロート)に乗った人が沿道の群集に飴をばら撒きます。こんなフロートが次々と一体何台通るでしょうか、初めから終いまで数を数えたわけではありませんが、少なくとも15~6台はあったと思います。その全てに夫々10数人が乗っていて手当たり次第に飴をばら撒いて行きます。フロートとフロートの間には楽隊あり鼓笛隊あり、テレビ番組の人気キャラクターのぬいぐるみを着た一団あり、にぎやかなことです。

パレードの出発点から終点までカァディスの場合3時間の予定なのだそうですが、その間、一人あたりどの位の飴を撒くのか？ フロート全部に合計何人の人が乗っているのか？ スペイン全土で似たような事をやっているのか？ アンダルシア州が特に盛んなのか？ 雨の多い北の地方では飴撒きどころではないと思うのですが、とにかく考えただけでも大変な量の飴がこの1月5日の夜3~4時間の間に、アチコチの町の沿道を埋めた群集に向けてばら撒かれるのです。一体何百トンの飴が???



この町のパラーダ (parada=パレード) は2キロ余りの道のりを約3時間かけて練り歩くもので、その人出は延べ何人になるのか、この町の言わば目抜き通りが2キロ余にわたって人で埋まるんですからどう見積もっても何万人という単位だと思います。どこから何時に出発してどこまでなのか、前日に観光案内所へ聞きに行きました。

ところが案内所は知らないんですネー。これにはこっちがビックリ。

電話でどこかに聞いていましたが、それも一ヶ所では分からず、又別のところへ掛けなおしてました。最終的には親切に教えてもらえましたが、こんなこと聞きに言ったのは私達が初めてなんでしょうか？ その案内所のある市庁舎前広場が終点なのに私達のために調べてくれて教えてくれた係りの女性三人は、観光客がそんなこと聞きっこないと思ってたんでしょうか？ 彼女達自身も興味がなかったのでしょうか？ 宗教行事ですから教会は無関係ではない筈ですが、市の動脈ともいえる目抜き通りを3時間も交通規制するのですから当然市当局も警察も噛んでいる筈。パレードの主催者は多分市だと思いますが、どの団体の主催であるにせよ市の観光局がやっている観光案内所が詳細を把握できないわけがないのに一。ツタクー。



これらのフロートは市内の各会社や団体などが出資しているようで、スポンサーの名前が入ったものもありました。1・2・4枚目の写真などがこのお祭りの主役、いわゆる東方の三賢人(又は三博士、Reyes Magos) に乗ったフロートなのだと思います。3枚目の写真のはパパ・ノエル(Papá Noel=サンタ・クロース) で後ろにはフェリス・ナビダー(ド)(Feliz Navidad=メリー・クリスマス)の字が見えますね。クリスマスから公現祭までが一連の宗教行事だということがお分かりいただけると思います。ところで、4枚目の写真。スフィンクスと三賢人が乗ったフロート。何故スフィンクスなのか、イワレは知りませんがそれは置いて、その手前をよくご覧下さい。コウモリ傘を逆さに構えてる奴が見えるでしょう？ 写真には一つしか写ってませんがこのテが結構居るんです。バラバラと飴アラレの如く降って来る飴は写真には写ってません。それを何とか写そうとRは撮影に没頭、飴どころではありません。デ、N・nコンビはどうしてたか？ 勿論、飴拾いに没頭。もともと、熱心だったのはNだけだったようですけどネ。ほんとはコウモリ傘欲しかったんじゃないのか。\*\*\*

---

## 「招かざる客」の巻

先週の金曜日、10日間の息抜きをして充分寝足りた娘をセビージャ空港に見送って夕方5時半過ぎに帰って来ました。朝8時半の電車で出発しても帰って来るのはこうなってしまいます。やっぱりカアディスは便利なところじゃありません。住んでいる私達は満足、町自体はゲストにも満足して頂けると思うんですが・・・。

シャワーをかぶってヤレヤレとまずは冷たいセルベサ。ホントは今日は休肝日だったんですがそれは明日に振替え、これぞ臨機応変。

そろそろ日没です。ずい分日が伸びたもので冬至の頃には丁度18時ぐらいだったのに、今では18時半少し過ぎになっています。夕日を眺めながらのセルベサも終り、Nは夕食の支度、Rはたまっていたデジカメ写真の整理でPCに向かっていました。ふと、何かの動く気配に外を見ると、なんとナントかわいいネコちゃんがうちの中をうかがっています。ベランダのテーブルにちょこんと座ってジット私達二人の動きを眼で追っているんです。



フラッシュで驚かせたくないなので逆光になってますが、アップにすると・・・。

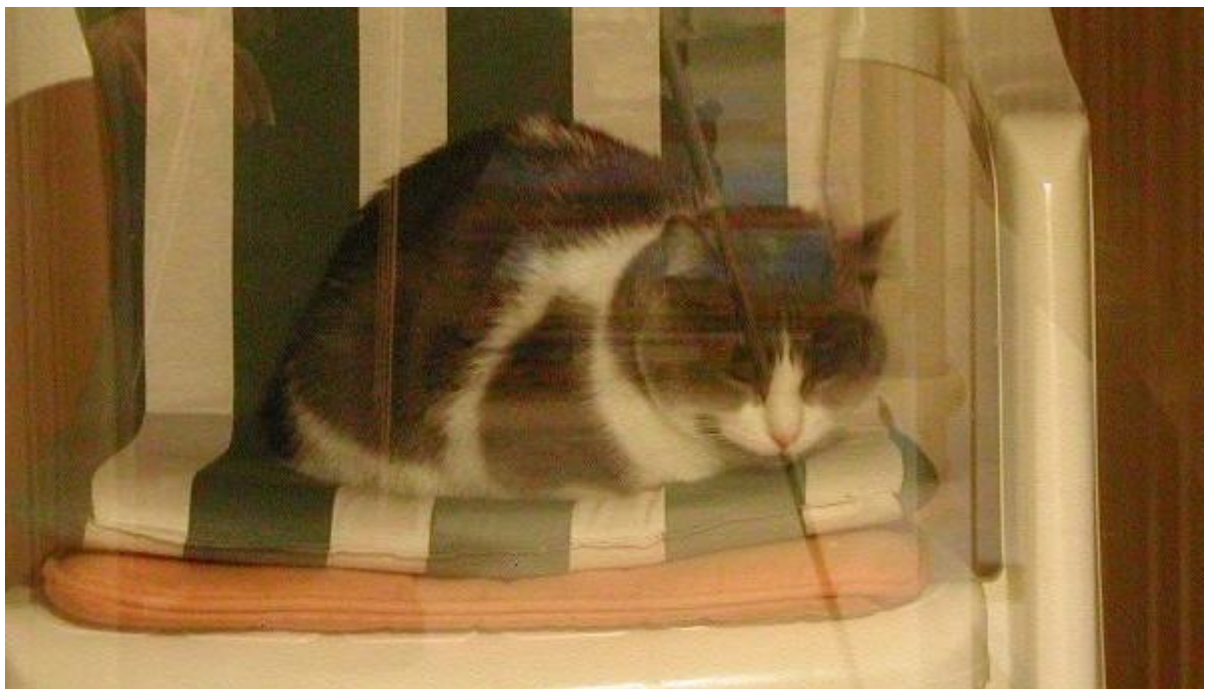


どうです？ 猫嫌いのかたには申し訳ないですが、なかなかカワイイでしょう？

コッチが恥ずかしくなってしまうほどジッとみつめています。人間にこんなにジッと見つめられたら、思わぬ誤解が生じそうです。どんな誤解かは別としてネ・・・。



そして、あたりが暗くなっても一向に立ち去る気配もなく、そのうちテーブルからもっとガラス戸に近い座布団のあるプラ椅子に移ってくると、ソコに座り込んでしばらくは中をうかがっていましたが・・・、やがてこのとおり、こっくりコックリ。





実は、このネコちゃんこれが初対面ではないんです。私達がここに引っ越してきて間もない10月末のある日、私達が窓際の食卓でランチ・ビールをやっつけていると、お隣の例のテレビの音が大きい部屋、E室とのベランダの仕切り壁からネコの顔がにゅっと覗きました。

私達もビックリしましたが、むこうはもっとビックリした様子でした。しばらく双方共固まっていたのですが、睨み合いというような険悪な様子ではありません、何しろNは大の動物好き。私達の心配は、これ以上びっくりさせて落ちたりしたら大変という事でした。だって、隣室との仕切り壁は約13センチ、ネコ本体は仕切りの向こうにあって、首と頭は壁のこちら側、言うなれば上体をUの字型に捻って仕切り壁の向こうとこっちにまたがっている不安定な状態です。私達の心配をヨソにしばらくキョトンと私達の顔を交互に見比べていましたが、そのうちスッと引っ込んでしまいました。私達は慌ててベランダへ出て下を見ましたが、落ちた様子はなくヤレヤレと胸を撫で下ろしたのです。ソレッキリ、2ヶ月半。イヤー、お久しぶり、というわけ。次の朝、カーテンを開けると、もうこの通り、またガラス戸の外に待っていました。



ところで、このネコちゃんの飼い主は、依然として正体不明ですが一度だけオバサンとはエレベーター前であって挨拶をしました。いかにもスペインのオバサンで、ドスのきいたしわがれ声の気さくそうな人、Nより少し若いかなという感じでした。

困った事があつたらいつでもノックしてネ、と言ってくれました。オジサンとはまだ顔を合わせていません。Nは一人暮らしじゃないの？ と言っていますがオジサンら

しい声も時々聞こえます。テレビかも、或いは長ツチリの男性客かも・・・。

オバサンは自分のネコちゃんがウチに遊びに来る事を気づいているのでしょうか？ 危険な綱渡りの訪問をする事をオバサンが承知で居るのなら、こちらとしては何の不都合もありません。むしろNは大喜び。

ところがガラス戸を開けるとサッと自分の部屋に帰ってしまうのです。決してガラス戸から中には入ろうとしないのです。遊びには来るけど馴れ馴れしくはしない。なんと節度のあるネコよ。しかし、これからがNの本領発揮。しばらくして又現れたときにはご覧の通り、ガラス戸をそっとあけて腕だけをだしてトウトウ手なずけてしまいました。手のひらにカツブシ乗っけて呼んでいるN、恐る恐る近づくネコ。

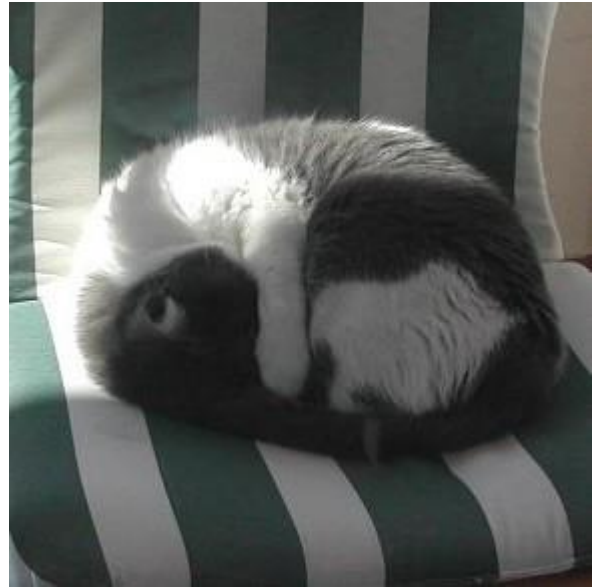
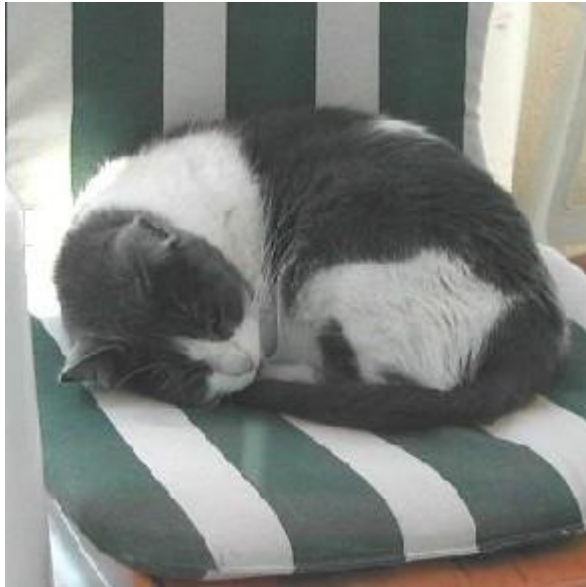




Nの術中にはまってじゃれるネコ。



もう、甘ったれ放題のネコ。これ以後は我が家も同然、リラックスしっぱなし。



丸くなって眠りこける眠り猫。ここは静かでいいニャー。ウチはTVが・・・。



手も足も伸ばして、あったカーイ、気持ちイーイ。我が家の特等席エマニュエル・チェアも占領。

一日目はガラス戸を開けただけで、サッと帰ってしまったネコちゃん。2日目はNに慣れてガラス戸から突き出したNの手にじゃれるようにはなったけれど、やはりガラス戸を開けると帰ってしまいました。ところが、3日目にはトウトウNの誘惑に勝てず敷居をまたぎました。Nが敷居から一步下がって誘っても、暫くは恥ずかしそうに体を戸口にこすりつけてヨレていましたが、やがて意を決して……。が、我が家への進入は約1メートルだけ。あくまでも慎重、節度あるネコちゃんです。



ホラ、ボクこんなこともできるんだヨ。



アデランテ！（お入り）と言われて、はにかんでヨレてしまって・・・。

二人だけの生活にメリハリをつけてくれたネコちゃん、いつでも大歓迎だけど、私達の一番の心配は隣室からのアブナイ通路。  
これが人間の眼から見ると危険極まりないのです。だってこんなところを通ってくるんですヨ。仕切り壁の厚さは13センチ、その外側にわずか4センチの平らな通路があるだけです。



高所恐怖症の人にはとても見下ろせない高さ。この階は10階ですが実質は11階。約30メートルの高さですから落ちたらマズ助からない。二軒おいた先のG室にはサラちゃんという活発な3~4歳のフランス系の女の子が居ますが、そのウチはベランダ全面にネットを張っているくらいです。この4センチの通路を平然と行き来するのが我々フツウの人間には恐怖の種。オバサンは知ってて平気なんだろうか？  
ところでNは初め、手なずけるのにナケナシの削りブシを手のひらに載せて歓待の意を表していたんですが、意外や意外、このネコちゃんはニオイを嗅ぐでもなく、舐めてみる事もせず全く無関心。ただヒタスラNの手にじゃれついただけでした。  
考えてみれば「ネコにカツブシ」は間違いなく日本語、スペイン・ネコには通じなく

でも不思議はありません。生まれてまもない頃から10階の部屋で暮らしてペット・フードだけしか食べた事のないネコ、平衡感覚は本来のネコ並ではあるけれど、ネズミをとるような野性はないのでしょうか。カツブシもいらんか？

話は前後しますが、このネコちゃんをはじめて我が家を訪問した金曜の夜はオンセの発表の日でした。オンセ(ONCE)とは国立スペイン盲人協会のことで、この協会が運営している宝くじをオンセと呼びます。外にもロテリーア(lotería)という宝くじが有りますが、どうせ買うなら盲人協会のものをと私達はコッチ専門。

同じオンセでも色々な種類の籤がありますが、私達がたまに買うのは毎金曜夜に当り籤発表がある2.5ユーロのもの一枚だけ、ささやかな楽しみです。どうせ当りっこないけど、買わなきゃ絶対当らないんだからとにかく一枚買おうというわけ。

2.5ユーロ券の一等の当たりクジは約8億円、ビリは下一桁2.5ユーロ。これまではその2.5ユーロさえ当った事はありませんでした。

Nは縁起を担いでオンセを買うといつも日本から持ってきた小さな招き猫を乗っけていました。馬鹿馬鹿しい、ンなもの効くわけネーヨ、とR。



ところがどっこい、土曜の朝、オンセのサイトで当り籤を確かめてみると・・・。

オオアタリイー！ 下二桁6ユーロの賞金獲得！！ 晩酌ビーノ二本分！！！！

これは今までもずっとやって来たNの儀式、陶器のチビ招き猫のお陰ではなきソー。

当日初訪問の隣のネコちゃんはヒョットすると、とんでもない「大」招き猫かもしれません。次はもっと大きい当たりもってきてネー、タヨリにしてるからネー。\*\*\*